
學術無窮
京都大学総長
長尾真

# 第1章　学ぶに如かず
## ―　これから学問をする諸君に

1. 京都大学の学風
2. 真善美を考える
3. 形は精神の表れ
4. 専門職大学院
5. 明るい気持ちをもって

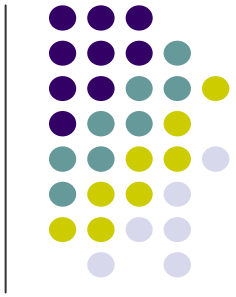
# 第2章　学術無窮
## ―　卒業していく諸君に

6. 自信と忍耐をもって
7. 不確実な時代を生きる
8. 本を読もう
9. これからの学問のあり方
10. 存在を問うこと
11. 共生の思想
12. 輪廻転生
13. 博物館と学問
14. ロマンを求めて
15. 西洋と東洋の違い

# 第3章　未来へ
## ―　大学変革諸事業への期待

16. 日本の大学のあるべき姿
17. 最近の京都大学
18. 京都大学の法人化
19. 大学図書館の課題
20. 大学文書館への期待
21. 桂キャンパスの開設
22. 百周年時計台記念館
23. 東京大学大学院情報学環・学際情報学府の創立
24. 京都工芸繊維大学100周年
25. 総長退任にあたって

# 補章　光と影と



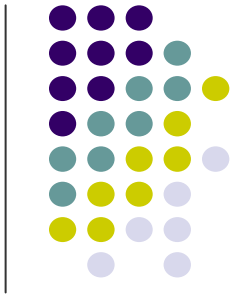
26. 東大･京大の競艇によせて

27. 遭難事故

28. 今西錦司生誕100年

29. 光

# 私の信条(1)



- 流行を追わない
- 他人がやっているから自分もそれをやるというのはよくない。アメリカの研究に追従しすぎている
- それでもやるなら、その分野のトップになる決心でやる
- 10年やってその分野で世界一流になれねば失格である
- 自分の夢を捨てずに、忍耐強く長期にわたって努力する

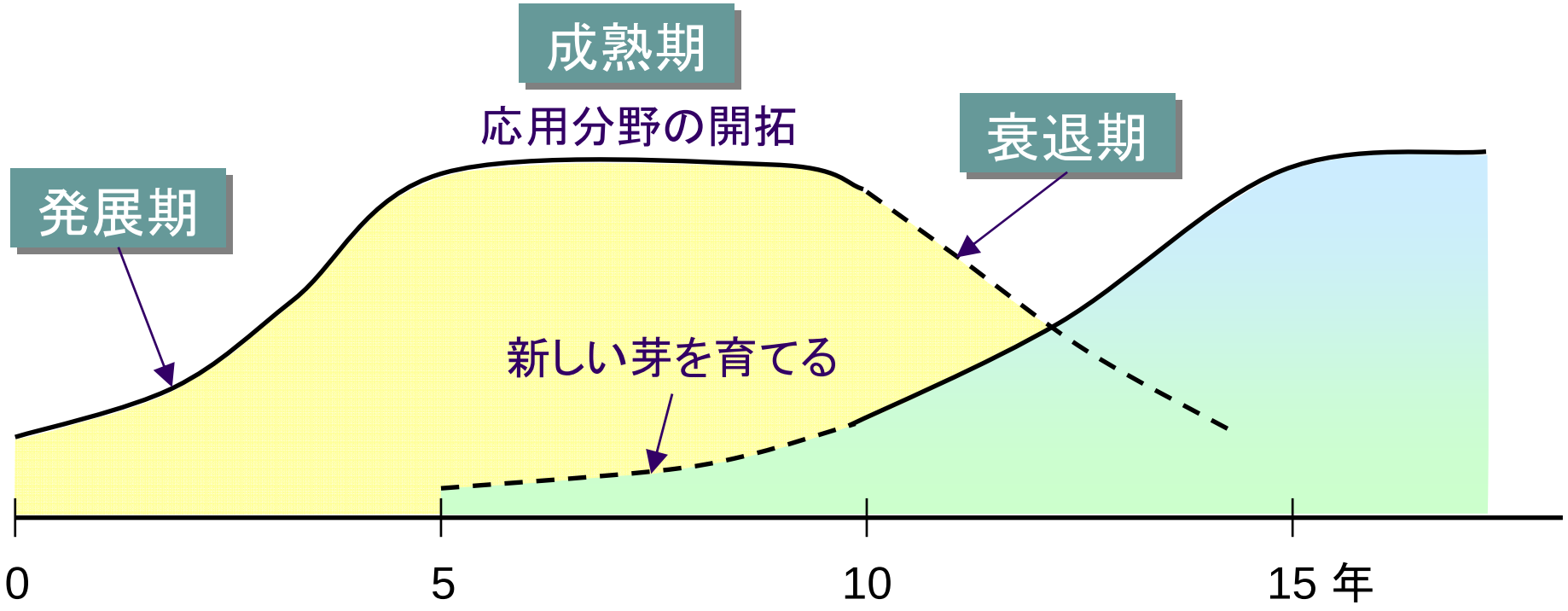
# 私の信条(2)



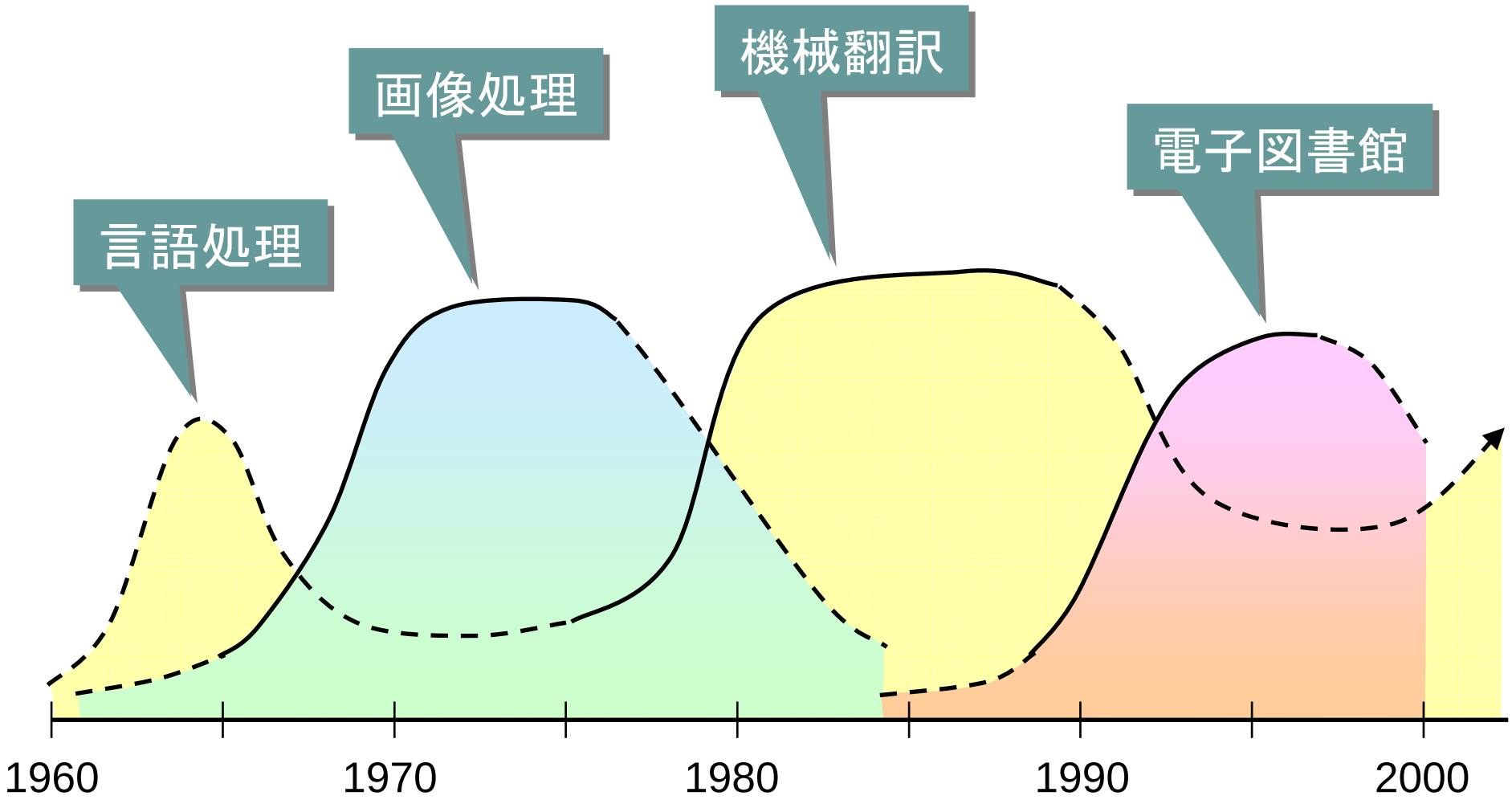
- 多くの人がやり始めた分野はその人達に委ねる。
  そこで競争していても仕方がない
- 人のやらない(気の付かない)、新しい、意味のある研究課題はいくらでも転がっている
- そのような良いテーマを見つけることが研究者としての第一の能力である

# 研究には波がある

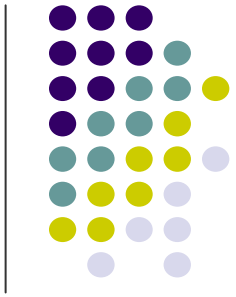
- 分野開拓期、発展期、成熟期、衰退期
- 発展期から成熟期の間に新しいテーマを探し、種をまく
- その分野から撤退し、新しい分野を立ち上げる



# 私の研究における波



# 競争について



- 良識ある研究者は他人に言われなくても自己を厳しく律している
- 競争は同じ分野、同じ評価軸上での争いであり、個性的な大学や研究者にとっては意味がない
- 競争ということによって独創性が奪われ、物事を深く考えなくなる。不正、捏造が行われる危険性がある
- 長期的視野で励ますような評価をすべきである